

2025.3.14

令和6(2024)年度 栃木県グリーン・ツーリズムネットワーク 活動実績報告

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク
(栃木県グリーン・ツーリズムネットワーク事務局)

1. 実施概要

- a-i 研修会①: 農泊地域の取組概要紹介・現地視察
- a-ii 研修会②: 地域の価値を可視化するストーリー作り研修
- a-iii 研修会③: グリーン・ツーリズムのコンテンツ造成の基礎研修
- b-i 分科会①: 県域取組促進分科会
- b-ii 分科会②: 受入体制強化分科会
- c 会員向けニーズ調査及びネットワークの将来ビジョンとそのスローガンの検討
- d 栃木県グリーンツーリズムポータルサイト運用
- e 活動報告会

2. 実施報告

- a-i. 研修会①: 農泊地域の取組概要紹介・現地視察

【狙い】

本県農村地域への誘客を促進し、農村地域の活性化を図るため、農泊の推進や都市住民等の新たなニーズへの対応が必要となっている。

そこで、農林水産省事業の農泊地域に選定され、グリーン・ツーリズムを推進する奥佐野農泊推進協議会の取組事例について学ぶ現地研修会を開催し、栃木県グリーン・ツーリズムネットワーク会員等の今後の実践活動の参考となる情報を提供する。

【実施時期】

令和6(2024)年7月8日(月)

13:00~15:30

【参加者】

ネットワーク会員等 47名

【会場】

道の駅どまんなかたぬま どまんなかホール
(佐野市吉水町 366-2)

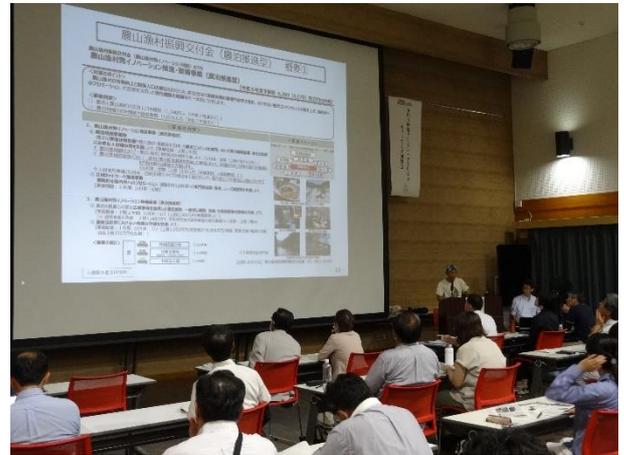
【講師】

田中 浩唯氏(奥佐野農泊推進協議会)

- ・奥佐野農泊推進協議会代表兼丸岳・里山再生協力会代表
- ・里山活動家、地域ファシリテーター
- ・民間企業を退職後、森林・山村多面的機能発揮対策交付金や休眠預金活用制度を活用し、自伐型林業の普及・実践を行う。
- ・2023 年奥佐野農泊推進協議会を立ち上げ、実施主体「丸岳・里山再生協力会」の代表を務める。

【実施概要】

- ・講演「奥佐野農泊推進協議会の取組紹介」
- ・活動場所の現地視察



グリーン・ツーリズム 現地研修会 参加無料

多様な分野をつなげ、地域をつなげ、参加者をつなげる。奥佐野地域に学ぶ旅を通してグリーン・ツーリズムへ地域貢献を、次世代へつなぐために。

森林水産省が推進する農泊地域として事業支援を行い、取り組む事例も取り上げます。

本研修会のポイント

- ①：地域の合意形成・理解促進、各種の専門家と連携した体験プログラムの提供
- ②：平日のワークショップにもかわらず、多くの参加者が集まる仕組み、理由
- ③：「二日に亘るかくむ」としてのワークショップに参加者が求めているもの

民間企業連携にゼロから活動する仕組みを伝達（※）された奥佐野農泊推進協議会の田中代表から、地域の枠組みづくりのノウハウや実施時の工夫といった体験談、活動の機会等について聴きたい方とご一緒に、定例フィールドである里山の現地視察を行います。

※研修者のノウハウと民間企業は連携促進の役割は、調査をお願いします。

グリーン・ツーリズム関係者や林業体験プログラム、里山の多面的機能の維持・発展に貢献のある方にとって役立つヒントが見つかる研修会ですので、ぜひご参加ください。

日時 令和6(2024)年7月8日(月) 13:00~15:30 (受付12:45~、解散15:30予定) 定員50名
※研修会参加の場、研修会参加費は別途必要です。

対象者 栃木県グリーン・ツーリズムネットワーク会員、グリーン・ツーリズム関係者、市町、県、林業関係者 など

集合場所 道の駅どまんなかたぬま どまんなかたぬまホール (佐野市高井町386-2)
※定員が満ちている場合はご遠慮ください。長靴を所持の方はご持参ください。

お申し込み 以下のいずれかの方法により、お申し込みください。【6/28(金)まで】
①宛先「参加申込書」をメール又はFAXで下部記載の事務局まで送付
②電子申請フォームから申込

主催：栃木県 協賛：栃木県農林部林業振興課 農林・中山間地域振興課
TEL: 0286-629-2218 FAX: 0286-629-2217 E-MAIL: chokki01@pref.fockig.jp

研修会では、はじめに奥佐野農泊推進協議会の田中代表から、取組の概要や経緯、理念、今後の展望等について講演をいただいた。魅力的な講師との出会いや連携への進め方、国の交付金を活用して取組を進めていったことについてのご説明を受け、理解を深めた。

仲間づくりのためには、その人が話す内容やその人が交友している人がどんな人なのかを徹底的に観察し、「本物」と感じる人を見極めて、情熱を持ってアプローチしていく、という考え方を学んだ。

【受講者意見抜粋】

- ・午後の実地調査では実際に佐野市内での取り組みの場を見学することができましたこと、非常に刺激となりました。
- ・親子連れや女性で興味のある方をターゲットとして農業、林業に興味を持っていただける取り組みは興味深かった。
- ・問題意識を持つことから始まって、熱意と地道な努力で解決していくという地域おこしの姿を見ることができた。
- ・田中さんの人を集める力や PR 力、および自立に向けた商売活動を行うことが活動団体においていかに重要かを実感した。講師の人を目当てに人が集まるというのは、とても意外で面白かった。

a-ii. 研修会②: 地域の価値を可視化するストーリー作り研修

【狙い】

群言堂、他郷阿部家など、メディアで多数取り上げられている松場登美氏の取り組みは、グリーンツーリズムの視点から見て学ぶところが多い。松場氏が提供する「上質な日常」を紐解き、グリーンツーリズムを通して伝えたい、かけがえのない体験や本質的価値を見つめなおし、可視化するための方法を学ぶ。

【実施日時】

令和6年10月30日(水)
13:00～15:00

【参加者】

ネットワーク会員等 91 名

【会場】

栃木県総合文化センター 第一会議室
(宇都宮市本町 1-8)

【講師】

○松場登美氏(株式会社石見銀山群言堂グループ取締役/株式会社他郷阿部家取締役)

1949年、三重県生まれ。株式会社「石見銀山生活文化研究所」取締役 相談役。株式会社 他郷阿部家 取締役。1981年、夫である松場大吉の故郷、島根県大田市大森町に帰郷。1989年、町内の古民家を改装し、「コミュニケーション倶楽部 BURA HOUSE(ブラハウス)」をオープン。以降、数軒の古民家を再生させる。

1994年、服飾ブランド「群言堂」を立ち上げる。2003年、内閣府・国土交通省主催「観光カリスマ百選選定委員会」より観光カリスマに選ばれる。

2006年、文部科学省・文化庁より文化審議会委員に任命される。2007年、内閣官房・都市整備本部より地域活性化伝道師に任命される。2008年、日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2008 総合3位」に選出される。株式会社「他郷阿部家」設立。2011年、株式会社「石見銀山生活文化



「足元の宝を見つめて暮らしを楽しむ」というテーマで松場氏に講話をいただいた。「これは私の挑戦事例です」という言葉から始まった松場さんのお話は大変引き込まれる内容で、大森町の古民家を再生していくにあたっての経緯、思いを通して、生き方、暮らしへの向き合い方を示してくれた。普段身近にあって気が付かないような美しさや、私たちの暮らしの足元にある「宝」＝「価値」について深く考えることができ、グリーンツーリズムの本質に迫ることができた。講話の後は西岡智子氏も迎え、松場氏、西岡氏両名によるトークセッションを行い、価値を「伝える」ことに焦点を当ててトークを行った。

本研修会はチラシを作成し、ネットワーク会員以外にも広く周知を行った。著名な松場氏の講演は注目度が高く、県内から多数の参加があった。講演の反響も大変大きく、アンケートからは高い満足度の評価とたくさんの感想をいただき、講演後にネットワーク会員に加わる方もいた。また今回の講師選定では、ネットワーク会員からの希望を反映しており、ネットワーク会員の需要を捉えて開催できたことも満足度が高められた要因の一つだと考える。

【受講者意見抜粋】

- ・言葉に先行されない、グリーンツーリズムのあり方が分かりました。
- ・仕事、暮らしを大事にした、長期間に渡るまちに残るプロジェクトについてしっかり聞けた。
- ・松場さんの話は圧巻でした。暮らしは大切であり、美しいものですね。
- ・実践されている方の志が聞けた。
- ・価値について前向きに学べた。未来を考えることができた。
- ・松場さんのお話から、価値とは、経済的価値だけでないということに刺激を受けた。

a-iii. 研修会③: グリーンツーリズムのコンテンツ造成の基礎研修

【狙い】

誘客促進による本県農村地域の活性化を図るためには、地域資源の持つ価値をストーリーとして構築し、商品・サービス利用者に届けることにより、付加価値や体験価値を高めることが重要となる。

そこで、10月30日開催の第2回研修会では、松場 登美 氏の講演から 当該地域資源の持つ価値のストーリー構築・提供の実践例 について学びを深めた。

さらに、第3回研修会では自身が伝えたい価値をストーリー化してコンテンツとして落とし込む方法を講義とワークショップを通して学ぶ。(午後が続いて行う第1回分科会では、各主体が持つ 又は検



研修ではまず、「コンテンツ造成の基礎研修」というテーマで60分の講義をいただいた。最近の旅行業界のトレンドから、ターゲティングの方法、各地のグリーンツーリズムの事例まで盛りだくさんの内容でお話いただき、その後は「伝えたい価値をストーリー化してコンテンツを作ろう」という個人ワークショップを行った。各自が取り扱うコンテンツのストーリーを、コンテンツタリフと呼ばれる形にまとめた。

ワークショップ中はどのようにストーリーを商品化(コンテンツ化)すればよいのか、商品化するにあたってのポイントは何かについて活発に前場氏へ質問があり、皆さんそれぞれが真剣に取り組まれた。

【受講者意見抜粋】

- ・GT、農泊の一般的な知識を深掘り出来た。
- ・集客の仕方が具体的な事例だったので、非常に参考になった。
- ・コンテンツ造成を疑似的に体験できた。
- ・ワークシートのサンプルが参考になりました。
- ・既に取り組んでいるが、グリーンツーリズム・体験コンテンツ造成等について再確認することができた。

b-i. 分科会①: 受入体制強化分科会

【狙い】

栃木県域で活動する団体での現地視察会を通して、メンバー間の関係構築を図るとともに、有する資源やノウハウを共有し、会員間での連携体制の強化を図る。

【実施日時】

令和7年2月3日(月)12:30～15:10

【参加者】

ネットワーク会員等 17名

【会場】

藍百姓 藍松(さくら市上河戸 1007)

【内容】

現地視察「藍百姓藍松」を通して、藍農家の現状、藍の様々な活用、ワークショップや商品化などについて知識を深めた。その後、持続可能な受け入れ態勢について、意見交換を行った。



【参加者意見抜粋】

- ・藍を育てる面積は全国でも少なく、染師が生産から行っているケースも多いため、藍農家だけをしている人はほとんどいない。化学製品に押されてしまっているという現状もある。しかし、日本の誇りの色「Japan ブルー」を守っていきたい強い想いがあり、藍の可能性を信じ、様々な付加価値を高める活動を続けている。そのために様々なイベントなども行っているが、農家に集中したい思いがあるというお話を聞くことができた。
- ・農家をメインに続けていくための機械、施設設備などのアイデアなどについても、視察メンバーで意見交換された。
- ・大変有意義な研修となった。是非とも松由様とツアーの企画をご一緒させていただきたい。

b-ii. 分科会②: 県域取組促進分科会

【狙い】

第1回分科会では、会員間で各自の取組内容等を共有するとともに、塩谷いちごウォークの事例発表を基に地域における連携について意見交換を実施し、会員間の相互理解及び連帯感の醸成に取り組む。

第二回では、当ネットワークの将来ビジョンについて会員間で意見交換を行い、今後より一層活発に連携を取りつつ活動を行うための検討を実施する。知識を深めるため、狙いの相乗効果を狙うため2つの分科会をつなげて実施する。

○第一回目○

【実施日時】

令和6年11月20(水)13:00~15:00

【参加者】

ネットワーク会員等 24名

【会場】

栃木県庁北別館会議室 401
(栃木県宇都宮市戸祭元町 1-25)



【内容】

- ・情報交換会として、自己紹介を交えながら午前中の研修会で検討した各自のコンテンツ案をシェアしたり、最近の活動についてシェアしたりした。会員によっては日頃の悩みなどを共有した。会員であってもお互いについて知らない部分もまだ多く、意義のある時間となった。GT への加入を迷っている事業者とも交流を深めることができた。新規で GT を始めようとする方と、今まで行ってきた方の情報交換も貴重だった。
- ・情報共有の後は、地域連携の事例紹介として「塩谷いちごウォーク」の事例を代表の遠藤氏にお話しいただいた。補助金を利用に地域のメンバーとうまく連携して行う方法などについて教えていただいた。
- ・最後に会員向けに行った ニーズ調査（9月実施）についての結果報告と意見交換会を行った。アンケート回答者は 22 件となり、回収率が低かったため、回収率を向上させる工夫についてご指摘いただいた。
- ・内容については、各会員が大切にしていることその他、広報、集客、資金や人手不足などの課題を抱えていることが改めて分かった。すでに事業者によっては連携している例もあったが、本ネットワークに参加する理由としては他団体との連携を求める声が多かった。

○第二回目○

【実施日時】

令和7年2月3日(月) 15:10～16:00

【参加者】

ネットワーク会員等 13 名

【会場】

喜連川丘陵の里 杉インテリア木工館
(さくら市穂積 478)

【内容】

栃木県グリーン・ツーリズムネットワークの将来ビジョン及びスローガンについて、ビジョン等策定の主旨や目的、現在のビジョン等の案を事務局からお示しし、それに対して会員から意見をいただいた。その後は会員間での情報共有を行い、相互理解を深めた。



【意見抜粋】

- ・現在のネットワークの活動として、参加するメンバーが少ないという現状がある。そして、様々な立場のメンバーがいる。メンバーそれぞれにグリーンツーリズムに向き合う状況が違い、ネットワークに対して求めるものも違う。
- ・グリーンツーリズムの本質をしっかり捉えることが重要。
- ・ネットワーク会員内の相互連携を深めたりすることが目的であれば、回数を重ねて、量から質を求めるために、まずは量を行うことが重要。定期的なメルマガなども取り入れたらどうか。
- ・今ある体験を、ネットワーク会員の別施設で行うなどの連携ができないか。
- ・多くの人にPRし、幅広く知っていただきたい！GTと観光の接点を融合させたい！

c. 会員向けニーズ調査及びネットワークの将来ビジョンとそのスローガンの検討

【狙い】

160 団体を超える会員の抱える課題やネットワークを通して取り組みたいことなどの意見を収集し、ネットワークの未来像を描きながら今後取り組む活動や収益事業の仮説建てを行う。

【実施方法】

事務局で質問票を作成。google form を活用した電子的方法で実施

【回答受付期間】

令和6年9月 19 日から 10 月4日

【回答数】

22 件

【集計結果】

別添レポート参照

【スローガンの検討】

アンケート結果を踏まえ、ビジョンとスローガンの事務局案を複数作成。2月3日に行われた県域取組促進委員会にて意見を求めた。

参加者からはより中長期的な視点に立った検討をする必要性と併せて積極的な意見出しがなされたことから、事務局協議の結果令和7年度事業で会員と再度検討を行ったうえで策定することとする。

d. 栃木県グリーンツーリズムポータルサイト運用

本ネットワークで企画運営を行った研修や分科会などの情報のほか、会員団体の情報の更新を行った。

※本ポータルサイトについてはセキュリティ上の都合により今年度末をもって閉鎖。会員のスポット情報については「とちぎの農村めぐり (<https://www.agrinet.pref.tochigi.lg.jp/tochigi-nouson-meguri/>)」に、ブログや会員一覧情報については栃木県農村振興課ホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g02/>)」に移行予定

e. 活動活動報告会

【対象者】

栃木県グリーン・ツーリズムネットワーク会員

【実施形式】

書面開催(報告書をメールや郵送等で送付)

【通知日】

令和7年3月 14 日(金)

3. 成果

<成果>

- ・会員のニーズにこたえ、著名な講師を迎えた講演会を行うことで、会員をはじめとして多くの参加者に満足度の高い研修となった。そのような形でグリーンツーリズムの本質を考える機会を創出したことで、研修会をきっかけとして、グリーンツーリズムに興味を持った方に、新規に加入いただくこともできた。
- ・県内のグリーンツーリズム実践現場への視察を取り入れること、また、分科会で必ず会員同士の意見交換、情報交換の時間を設けることによって、相互理解が深まり、県内の連携への機運を高めることができた。
- ・現地視察や会員間の交流のなかで、将来的な協働に向けた機運が生まれるなど、相互理解を促進することによる成果を実感することができた
- ・グリーン・ツーリズム実践団体である Kitrip Nikko と協働で事業の企画運営を行ったことにより、当事者視点が一層伴った企画が可能となった。